

認定特定非営利活動法人 RASA-Japan

ニュースレター

2023.12 Vol. **43**



ごあいさつ

理事長 藤井 典夫

コロナ禍でRASAの事業も活動も大きな影響を受けました。ボランティア派遣事業に至っては全く活動ができませんでした。詳細はニュースレターやホームページでご報告のとおりでございます。

監督官庁の話では、この3年間に資金の行き詰まりで、廃業に追い込まれたNPO法人も散見されたそうです。円安の影響をまともに受けているRASAの頑張りには、高い評価を頂きました。

これも偏に社員、賛助会員、寄付者の皆様方のご支援の賜でございます。心から厚くお礼申し上げます。

さて、秋が深まるこの季節に思い出されるフィリピン の光景がございます。

"裏を見せ 表を見せて 散る紅葉(もみじ) 良寛" 猛暑に悩まされた夏がようやく過ぎ去りました。 紅葉も寒冷地に始まり、だんだん麓でもこの俳句の 風景を見ることができるようになることでしょう。季節 の移り変わりを私はこの俳句に強く感じます。

亜熱帯地方のフィリピンでも、時の流れや季節の 移ろいを感じさせられる自然現象が見られます。 それはススキの穂です。日本のよりも一回り大きな純 白の穂が、草むら一面を覆う時期があるのです。 十三夜の名月の頃の現象です。同じ頃、火焔樹(かえんじゅ)という街路樹もたわわに濃いオレンジ色の 美しい花を咲かせます。

私は社命で1995年5月にフィリピンに現地法人設立のために赴任しました。会社設立から用地取得、工場建設、操業まで3年かかりました。ラグナ・テクノパークという大きな工業団地です。マニラから工場建設現場まで通勤時に見た荒れ野の風景を思い出しました。年間を通して常夏の季節なのに、自然の営みには四季があるのだということを知りました。

コロナ禍で活動が制約されている間でも止めることができない貧困家庭の命を繋ぐ「食品配付」は、食材の高騰と桁違いの円安に苦しみながら140家族へ約2ヶ月の夏休み中でも配付物の価格を抑えて、栄養価を維持しつつ命を守り続けてまいりました。

学校建設資金は食品配付事業を重視し振り向けた分、資金的に目減りをさせてしまいました。食材の大幅な値上がりと一段と進んだ円安の影響です。ついに、1ドル151円後半まで値下がりしました。

2025年2月には学校建設事業とボランティア派遣 事業を再開する予定ですが、一段の円安進行と建 材の高騰で大幅な資金不足です。役員一同は半端 ではない資金の目減りと建設資金確保活動に特化 した活動に邁進いたします。

どうぞ皆様方ご支援者の一段の温かいご支援をい ただきますようよろしくお願い申し上げます。

寄附金受領証明書をお送りいたします

いつもご支援いただきありがとうございます。

「認定NPO法人」でありますRASA-Japanへの寄付(賛助会員会費を含む)は、税制優遇の対象となります。 ご寄付をしていただき、ご希望される方へ『寄附金受領証明書』を発行しております。 寄付金控除を受けるためには確定申告が必要ですので、お手続きに間に合うようお届けいたします。

- ・発行対象期間: 令和5年1月1日~令和5年12月31日の間に入金が確認できた寄付および賛助会員会費
- ・お届け予定日:令和6年1月下旬頃

※1年分を合算して発行させていただきます。

住所等変更された方は、事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。 税制優遇の詳細は、お住まいの地域の税務署にお問い合わせください。



8月末より、現地の2023学年度が始まりました。 支援をしているサウスビル I 小学校は、約5,600人の 児童が在籍する小学校で、生活困窮世帯が多い地 域です。

長年校内で実施してきた、支援対象100人の給食 支援は、2020年3月にコロナ禍で学校閉鎖となり中 止しました。翌年後半から、校長と支援の方法と対 象を話し合い、支援幅を拡大し、予算も40%増額し て、毎月2回の食品配付支援を行うこととしました。

支援対象は、7学年 各学年20人 合計140人の児 童を選択しています。栄養を考慮して、食品配付支 援を継続しています。

出来るだけ多くの児童を支援するため、学年度で2回選択機会を設け、前半(Set A)後半(Set B)と年2回に児童の選択を行い、救済必要の高い人を支援する方針です。

今年の前半140人のリストから具体的な貧困の実情をお伝えします。

フィリピンの食生活の習慣と受給者

貧困地域では、一汁一采一山盛りのご飯の上に野菜だけの煮汁をかけ、時には干した小魚をまぶして、一皿で食べています。台所らしきところには、米櫃、砂糖、塩だけで、魚醤があれば珍しいくらいです。 鍋が一つあるだけですが、無収入でも飲料水は買わなくてはなりません。

【父親の仕事】

父親が無収入の場合は、既に死亡されているか、 病気で働きなどが多い。

仕事	人数	月収		
建設作業員	36人	6,000ペソ		
運転手	12人	3,000~7,000ペン		
ごみ選別再利用	10人	3,500~4,000ペソ		
工場労働	4人	6,000ペソ		
保安要員	4人	5,000ペソ		
労働者	3人	5,000ペソ		
トライシクル運転手	3人	4,000ペソ		
農作業	3人	4,000ペソ		
配達乗務員	2人	8,000ペソ		

他には、ヘルパー(不定期)や塗装、門番、 電気技師、不定期な日銭稼ぎ等 物価高騰が続いており、その中でも米の値上りが配付食品数に大きな影響を与えています。9月に入り、7月と比較して1kgあたり約20円値上りし、1回の配付700kg分で、約14,000円高くなりました。フィリピンの食事に米は無くてはならない、ご飯中心の食生活のため、量を減らすことは出来ません。

米の値上がりで予算が減った中、おのずと蛋白価 100の卵やカルシウム源の粉ミルク、肉や魚の缶詰 は当然減りますが、仕方ありません。

また、この国の食生活は、手軽で安価な甘い飲み物を食事と一緒に飲むことが多く、野菜も肉も魚も何でも油で揚げる手軽な料理が多いです。

経済発展してからは、色んな料理や食品が手に入りますが、貧困層の多いこの国では、食生活の習慣は私たちの活動開始時からほとんど変わっていません。

1日3食食べられないため、小銭をもらった子どもは油で揚げた甘いスナック菓子を食事の代わりにしているのを見かけます。そんな店「サリサリストア」があちこちにあるのです。

太っているのに栄養失調症で、糖尿病が多い原因が分かります。受給宅訪問後、学校に戻ると、受給家族を学校に集め市長も参加して、大画面で生活栄養指導を行っていました。問題は、彼らが改善できる食品を購入できるかどうか。食生活習慣をどう変えていくかにかかっているのです。

【母親の仕事】

母親は幼い子どもが多いので、 働けない状態が多い。

仕事	人数	月収	
工員	5人	2,000~7,000ペソ	
鉄くず集め	4人	4,800ペソ	
ランドリー勤務	2人	1,000~2,000ペソ	
移動物売り	1人	1,000ペソ	
魚売り	1人	3,000ペソ	
ごみ収集	1人	1,500ペソ	
オペレーター	1人	5,000ペソ	

2023年度前半期 支援140世帯の困窮家庭状況

2023学校年度(2023年8月末~2024年7月初め)に選ばれた児童の家庭は、下記に示す月収入14,000~15,000円(フィリピンの平均月収約48,000円の40%弱)の過酷な状態です。しかも、この数字はたまたま登録表に記載時のもので、雇用が不安定で何時仕事が無くなるか判らない状態なのです。子どもの数を我が国と比較してみると、日本では平均3人と

しても、ここに挙げた家族の平均は約7人で、不安定 かつ少ない収入で生活を営んでいるのです。生きて いくことはどれだけ苦しいか、想像できます

RASAは選択児童140人に1人当たり約100円/日、年間190日分=約19,000円/人を140人に支援する総額約350万円が必要です。また、7、8月の夏休期間も契約外ですが、2023年度は特別に支援しました。

	支援対象		家族人数	有職世帯平均月収		
	選択人数			フィリピ ンヘ ソ	日本円換算 (1ペソ≒2.4円)	家計状況
幼稚園	20	6.5	4~12	5,916	14,198	無収入2世帯(父親死亡)
1年	20	7.1	3~11	4,947	11,872	無収入1世帯
2年	23	6.82	4~14	6,463	15,511	無収入2世帯 母親のみ労働4世帯(内、父親死亡3世帯)
3年	16	7.31	4~12	5,576	13,382	無収入3世帯(内、父親死亡2世帯)
4年	20	6.49	4~13	6,066	14,558	無収入2世帯、母親死亡1世帯
5年	20	6.85	4~11	4,968	11,923	無収入1世帯(父親死亡)
6年	21	6.95	3~12	6,537	15,688	無収入4世帯(内、父親死亡3世帯)
合計	140					

振り返り考えたこと

フィリピンのエンゲル係数は50~60%になるようです。子ども達が生活困窮に置かれ飢餓に近い状態がはっきりわかります。日本は年収平均433万円で子どもの数は世帯平均2人としますと、フィリピンの平均収入は日本の1/10、子どもの数は世帯平均4~5人で2倍です。いかに貧窮度が高いかが分かります。

訪問した実情から、支援を受けている極貧家庭は 近隣同士で互いを思いやり、よその家も自分の家も 区別なく助け合い分かち合い、子育てや情報共有し ているように伺えました。他人事として知らん顔する のではなく、自分のこととして取り組んでいるように見 受けられたのです。

つい日本と比較し、考えてしまいました。孤独死の問題、他家から助けが得られないヤングケアラー、高齢者や身寄りのない人。日本に昔はあった人の繋がりが薄れ、さらになくなり、特に都会ではその傾向が顕著で、孤独で寂しい人間関係が様々な問題を引き起こしています。

日本では昔から「人に迷惑をかけてはいけない」と

子どもの時から家庭や学校でも教えられて、社会通 念となってきたようですが、貧困層が大半のフィリピ ンでは、「今日生活できても、いつそれができなくな るかわからない」といった社会情勢。他者への関心を 持つ、それが相互扶助の人的ネットワークになって きたと思われます。

人が他人とかかわり、困っている時に手を差し伸べる。このことは、世話を受ける人は感謝と喜びがあり、また、する人も他人の役に立ったというふつふつとした心に響く喜びがある!この交わりは、国の豊かさに関係なく、貧富の差を超えて絆ができ、繰り返されることで、強い社会が築かれていく。一人一人が繋がっていくことが積み重なっていくことで、良い社会を築いていくことができるのではないでしょうか。

日本の私たちを振り返ると、今便利な生活の中で、 無意識のうちに煩わしい時間や手間がかかることを 避けられる暮らしの中にいるから、ともすれば失いが ちな絆を大切にする努力がいると思います。

今一度振り返ってみたいです。

現地で知ったこと

現地の学校は貧困家庭児童も受け入れているけど、支援物資は国や地元の行政から貧困家庭に行き亘っていない。支援の選択が、行政の縦割りによって行われているのではないか?平等やきめ細かさへの配慮は?と思わずにはいられません。

コロナ禍の期間中やその後の経済マイナス成長時に、日常支援でも公的な支援から漏れている貧困家庭の人々は、医療機関にかかれず、自宅で亡くなられた子どもや大人もかなりありました。医療制度や社会保障制度などは、国民があてにできる状態ではありません。「自分達のことは自分達で」、つまり自助努力にかかっており、彼等は国や役所を頼りにしていないと言います。彼等に接して、連帯の強さ、生きるためには自分達でできることなら何でもするという、自発性の強さを感じました。

ここ数年のフィリピンの顕著な経済発展からは取り 残されたている彼等。その恩恵は彼等には無関係 で、富裕層(都会に多い)や資本家に充当され、超富 裕層1.5%の人は更に富が増え続けていると予想さ れています。中流層以下は98.6%なので、フィリピ ン人の殆どが中流層以下といえそうです。貧困層は 5人家族で月収約2万円以下なので、食費が50%以 上とエンゲル係数が高く、フィリピンの物価がいくら 安いとはいえ最近の物価高(米が15%値上り)で、相 当厳しい暮らしといえます。

訪問した家に話を戻すと、雨露を凌げても、太陽熱や雨音が直接薄い屋根に当り、蒸し風呂のような暑さ。電灯は一つの家が殆どで、家の中は暗く、湿っぽい。地面に直置きのガスコンロの上には、ご飯を炊く鍋と皿には少量の野菜だけ。訪問の手土産で配った大きなパンを大事に抱えていた子ども達の笑顔は、忘れられません。

10月末から11月5日に、9日間の学校の長い休み期間がありました。彼等の現状を常に把握しているRASAの現地スタッフデニス氏から、「彼等は家でどうして過ごすのか。彼等のことを思うと哀れで、気の毒だと思わずにいられない。」とメールが届きました。配付は学校登校日だけが対象となっており、この間は支援が無いのです。極貧の下で飢餓状態は生命の維持に関わることを懸念されているのです。

支援対象者からのメッセージ 一支援対象児童一



私達家族がRASA-Japanの支援対象者の1人として選ばれたこと、どうもありがとうございます。そして、少なくとも5日間はまともな食事ができるようになり、大変嬉しく思います。

あなたの支援にとても感謝しています。私が受け取った恵みをもっと多くの子ども達が体験できるように、RASAが健康であることを願っています。



RASAの支援者になってくだ さった方々にとても感謝してい ます。

皆様が、私たちに与えてくれた 恵みに感謝しています。

もっと多くの子ども達が同じような恵みを受けることができるように、私達は皆様が幸せであることを願っています。







御支援者 丹羽 公男様のご紹介

タイム技研株式会社 名誉会長

一般財団法人タイム技研社会貢献委員会理事長

2021年末にRASAの活動を朝日新聞でご覧になり、フィリピンの学校建設資金獲得の初めての試みのクラウドファンディングへの大きなご援助は、目標達成の牽引力となり、達成できました。資金が確保できて、校舎が完成し現地の児童の粗末で過密な教育環境の改善に大きな役割を果たし、健常児童に加え障害児童も今後長く恩恵に与れます。改めて感謝と御礼を申し上げます。会長様のご決断を感謝し、今後の活動をより現地の貧困や教育支援に役立つものとなるように進めてまいる所存です。

2022年1月タイム技研本社へ御礼訪問に伺った際、会長様に初めてお目にかかり、創業時から現在迄の経緯のDVDを拝見しながら直々にご説明をいただきました。近郊で45年前4人で創業開始、ガスや水道器具等に必須の部品開発製造を手掛けられ、更に時代のニーズに応える多種類の製品の開発から製造を手掛け、裾野の広い製品開発と製造を一貫して進めてこられました。私たちの身近な生活器具や製品にタイム技研さんの製品が多く使われていることを初めて知りました。また、常に開発とそして更なる改良にと前向きに進めておられる姿勢を展示製品を拝見して、実感いたしました。

経営理念は「企業は人を幸せにする道具である。」 と伺い「社会貢献活動」を1996年に開始。利益の 10%を寄付する。海外支援も考慮されて、RASAの フィリピン支援が3番目になります。 会長様がそれ迄温め、貯めてこられた技術で「世の中のニーズに合ったモノづくりをして、時代の発展に寄与したい。」、また従業員が「幸せになること」を願い、単身赴任なし、家族(人間)が幸せになる事に仕事を繋げる会社造りをなさっていると伺いました。子育てしやすい勤務体制、人間尊重教育に貢献など一貫した信念で経営も進めてこられています。

日本全国の工場も従業員の地元で採用、現地法人で地元へ納税など利益の地元還元、社会貢献、還元を念頭に、治山治水—SDGsに貢献する姿勢で、植林から森林保全。またそこの木材を使って、地域の保育舎を新設寄付など。また高齢化問題を抱える地元への地域の交流支援もされています。

会社の創立15年後「王道を行く」理念を掲げ、「職業は人なり」と定め、仕事をする場所は人生に一番いい場所にしたいと、働く環境にもご配慮をされています。このように現在に至る迄、休むことなく精進なさってこられました。

今年3月に3年ぶりの表彰になる「**渋沢栄一賞**」を 受賞されました。

16年前に奥様を亡くされましたが、労苦を共にしてこられた奥様の夢が実現するようにと、共に手を取り歩まれてこられたことを知り、感無量でした!

そのご努力、ご苦労はいかばかりか、会長様の宝物になっており、深い感銘を受けました。今後の事業の益々のご発展と会長様のご健康をお祈りいたします。

支援対象者からのメッセージ ―児童の母親―

The Comments of the Comments o

私の子どもの1人が食品配付支援 対象児童となり、私達の学校を支 援してくださる貴団体に大変感謝 しています。特に、私には6人の子 どもがいるので、家族にとって大き な助けになります。

私は、「多くの貧しい人々を助ける というあなたの目標を継続するために、すべての祝福、力、強さを 与えてくださるよう」神にいつも 祈ってます。

どうか私達への支援をやめないで ください。

神のお恵みがありますように。



あなたが私からのお礼の手紙を読んでいる間、「おはよう」「こんにちは」と、いつでもご挨拶をしたいと思います。

サウスビル I 小学校の生徒達に 食品を配付くださっていることへの 感謝の気持ちを伝えたくて、手紙 を書きました。

私たちの神が、あなたの健康と長寿を祝福してくださることを願っています。

今後の取り組みと課題

学校建設事業について

理事 山本 良治

2020年2月に実施したボランティアを伴う学校建設 事業以後、新型コロナウイルス感染症蔓延により、実 施できなくなっております。

さらに、ご支援いただいている寄付金はコロナが流行すると集まらなくなってきました。止むを得ず、2020年末から2021年2月にかけてクラウドファンディングに挑戦し、目標金額500万円をお陰様で達成することができました。その資金を活用させて頂き、2022年6月に1棟3教室が完成して、32棟目の学校建設となりました。



2022年完成校舎

私たちは、学校建設を諦めた訳ではありません。 何とか再来年(2025年2月頃)には33棟目を目指して、 教育環境に恵まれないフィリピンの子ども達のため にも努力していきたいと思っています。本年7月に 具体的な候補地を現地教育省と建設会社とともに 視察を終えております。

しかし、課題はかなり大きく横たわっています。



学校建設候補地

<今後の課題>

①建設資金の確保

前回、1棟3教室を600万円強の資金で建設することができました。

しかし、近年の建設資材の高騰、円安の状況を考えますと、学校建設費用は1000万円程度に 跳ね上がるのではないかと危惧しています。 今後益々のご支援・ご協力をお願いします。

②スタッフの高齢化

RASAスタッフの殆どが70歳から80歳代になっている現状から、スタッフの若返りを図る必要があります。



建設作業

上記2つの大きな課題を乗り越えなくては、この事業の実施は出来ないものと覚悟せざるを得ません。 私たちは、これまで培ってきたノウハウを基に地道に取り組んでいきたいと考えています。

従って、皆様のご協力とさらに皆様の周囲に居られる方々にもご支援の輪を広げていただけるようにお願いする次第です。

ボランティア派遣事業について

理事 本田 直文

コロナ禍の影響で中止を余儀なくされていたボランティア派遣事業も再開したいと思っています。 学校建設と並行して行っていた当事業も次第に派遣人員が増え、今までに延べ700人以上の方々に参加頂いております。

<活動内容>

現地での主な内容は以下の通りです。

- ①参加者全員が現地でひとり一家族にホームステイ
- ②建設業者と共同で学校建設作業の遂行
- ③参加者による高学年クラスを対象とした日本語 授業の開設
- ④ホストファミリーと学校の先生参加の交流会実施



<現地の状況>

読者の皆様には中々ご想像できないかと思われますが、我々が訪れる田舎のホームステイ先の暮らしは日本の一般家庭とはかけ離れており、給湯設備・シャワー・水洗トイレやエアコンは無く、水道水は飲めません。そのため、毎日水で身体を洗ったり、水槽タンクからバケツで汚物を処理したり、ゴキブリとの戦いも頻繋に発生します。

集落内の通りには街灯も無く、家の中の電気もとて も暗い状況です。

また、学校建設作業では、主として砂ふるい、ペンキ塗り、セメント運び等の作業を炎天下の中で汗まみれになって、適宜休憩を挟みながら行います。この様な苛酷な条件の下で、2週間以上過ごします。



学校建設ボランティア派遣

<活動の意義>

現地に赴いた当初は、参加したボランティアの 方々は不安な表情ですが、日増しに目の輝きが生 き生きとし始め、作業も授業も嬉々としてこなし、ホー ムステイ生活も大いにエンジョイするようになります。 何故彼等がそうなるのか?それは、彼等が今まで 体験したことのない多くの事例に接し、新鮮な感動 (カルチャーショックも含む)を受け、これまでの世界 観と全く異なった感覚が芽生え始めたからと推測されます。

それは、彼等の帰国後の感想文から読み取れます。

- ・ボランティア活動に参加して本当に良かった
- •貧しくても笑顔の絶えない世界がある
- お金では買えないものがある
- ・日本の良さ悪さを認識できた
- 幸せとは何かを考えさせられた
- ・素晴らしい異文化体験で視野が広がった等々



我々スタッフは、彼等の喜びの声を多数頂いております。彼等の成長を間近で実感し、幅広い視野を持ったグローバルな未来を切り開く人間に育っていく機会を提供できることは我々の「やりがい」と自負しています。

ボランティア派遣活動に参加したいとの声がある限り、是非実施していきたいと思っています。



現地の子ども達

<今後の課題>

- ①今までの派遣活動には、過去参加された先輩 ボランティアの後押しする声が大きな力となって おりました。コロナ禍による長期のブランクで、 大学での募集活動については先輩諸氏が皆卒業 され、協力が難しくなりました。例年参加者は最低 30人以上を目指しておりましたが、どの位参加し てもらえるか不透明です。
- ②円安と現地の物価上昇で参加費用(従来は22万円/人 航空運賃・現地滞在費・食費等全て含む)の大幅な上昇が想定されますのが、これによる参加者への影響も不透明です。

学校建設もボランティア派遣も並行して行いたいと 強く思っており、スタッフ一丸となってどうしたら実施 できるのか検討を進めていきます。従来の枠組みや やり方にこだわる事なく、実施するためには何をす べきかあらゆる手段を講じたいと思っています。



日本語授業後に記念撮影

クレジット決済により会費・ご寄付が簡単になります

日頃よりRASA-Japanの活動を支えていただき、 ありがとうございます。

フィリピンへの支援を継続していくために、12月上旬より「正会員」、来年1月上旬より「賛助会員」「寄付金」のクレジットカード決済(以下クレジット決済)によりご支援いただけるよう準備しています。準備が整いましたら、ホームページの「ニュース」にて随時ご連絡させていただきます。

今までは、ゆうちょ銀行をはじめとする銀行振込か 現金での対応のみとなっており、支援者の皆様にご 負担をおかけしておりました。クレジット決済の導入 により、自宅で簡単にご支援いただけるようになりま す。

クレジット決済につきましては、決済フォームより手続きを行っていただくことで、会費・寄付が完了します。領収書につきましては、当団体で着金確認後(約1~2ヶ月後)メールにてお送りさせていただきます。

また、正会員・賛助会員の年会費につきましては、 1度クレジット決済の手続きしていただきますと、翌年 以降継続して毎年自動的に決済させていただきま す。複数回の申し込みは不要です。

手続き方法やご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

ぜひご検討いただき、ご活用いただけますと幸いです。支援を継続していくために、一層精進してまいります。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



クレジット決済ページのイメージ図

今後の活動予定

12月7・8日 南山大学チャリティーバザー 参加予定

12月上旬 正会員クレジット決済募集開始予定

1月上旬 賛助会員・寄付金クレジット決済募集開始予定

会員が減少傾向です!活動を支援いただける方、法人・団体を募集しています!

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

※郵便局・ゆうちょ銀行では現金での払込に加算料金が必要です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています



認定 特定非営利活動法人 RASA-Japan 理事長 藤井 典夫 〒468-0014 愛知県名古屋市天白区中平2-2627

TEL/FAX 052-803-1649

E-mail info@rasa-Japan.com

郵 便 振 替:口座番号 00890-4-31185

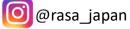
受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

三菱UFJ銀行:平針支店 普通 0037025

トクテイヒエイリカツドウホウジンラサジャパン

ホームページ http://rasa-japan.com







@rasa.japan



@rasa japan









